

桜の花を見ながら人生最期の時を思う

平安時代より以前は、日本で単に「花」と言えば梅をさしました。平安以後は桜です。最初は「貴族の花」「都の花」であった桜ですが、武士が台頭し、地方農民が生産力を拡大させてくるにしたがって、しだいに「庶民の花」としての性格を帯びてきました。よく「花は桜木、人は武士」という言葉が使われますが、これは江戸中期の歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」に用いられてから流行するようになりました。日本人は、月と花に大きな関心を寄せてきました。月も花も、その変化がはっきりと目に見える形であられることから、自然の中でも時間の流れを強く感じさせるものです。このような時間性ゆえに人間の「生」のシンボルとなったわけですが、特に

日本においては桜が「生」のシンボルとなりました。桜ほど見事に咲いて、見事に散る花はないからです。そこから、日本独自の美意識も生まれました。そして、月と桜を誰よりも愛した日本人こそ、西行でした。彼が詠んだ歌の中でも、次の歌はとくに有名です。「願はくは花の下にて春死なんそのきさらぎの望月のころ」歌聖とまで呼ばれた西行は、この歌に詠んだとおりの状況で入寂したという伝説が残っています。結局月も桜も、その美しさ、はかなさは限りなく「死」を連想させるのです。月は欠けるから美しく、桜は散るから美しく、そして人は死ぬから美しいのかもしれませんが、散りゆく桜の花びらを眺めると、死が怖くなっている自分の存在に気づきます。あなたも満開の桜を見ながら、ご自身の人生の修め方を想われてはいかがでしょうか。

株式会社市川葬典 取締役社長 坂上一己

●社長自己紹介（さかがみかずみ）

1965年生・A型・てんびん座
一級葬祭ディレクター 貨物事業運行管理者
趣味/寺仏園巡り、松山千春さんの歌を聴きながらのドライブすること。大切にしている物/時間・規律・秩序
座右の銘/男は男らしく、女は女らしく、人間は人間らしく。



◆ バレンタインに好きな男の子にドキドキしながら手作りチョコを手渡した1年生の娘。ホワイトデーには手作りクッキーをもらい嬉しそうな娘を見てまた私も幸せ。 井山奈津子

◆ この季節がきてしまいました。花粉症です。デビューから約8年が経ちました。3月頃から点鼻薬がかかせない毎日を過ごしていますが、毎年やりすぎて鼻血が出ます。

岩淵智康

◆ 春、岐阜。散歩してますか。ワタクシがどうであれ何時も流れる長良川…。無自性な水の粒子に宿るモノは、私とワタクシが散歩しないとワタクシに宿らない。ね…。

林道成



日光庵
〒502-0933
岐阜市日光町9丁目21番地
(固定電話なし)
*駐車場/式場西隣19台有

早田星光庵
〒502-0847
岐阜市早田栄町5丁目22番地

本庄月光庵
〒500-8323 岐阜市盛島町3丁目1番地
駐車場案内図
岐阜東西通り(西岐阜駅寄り)
第1駐車場 P
月光庵 本庄公園 第2駐車場(14台)
3~14番

【タクシー】 JR岐阜駅・名鉄岐阜駅より、距離2km、所要時間約5分です。

【バス】 JR岐阜駅前7番のりば(G盛島ルート)乗車、「本庄」バス停下車東へ徒歩1分です。

株式会社市川葬典
公式ホームページ
一日一件の貸切型
セレモニーホール
岐阜市 家族葬

おいくら 岐阜県岐阜市本町3丁目18番地 0120-00-4243 次号は2018年7月1日

「やわらぎの葬儀葬」東海セレモニーハウス
FUNEAM
有限会社 ファーイースト

心にくるご葬儀を……
株式会社 市川葬典
〒500-8034 岐阜市本町3丁目18番地
TEL 058-262-0042 FAX 058-265-3644



写真：小樽 貴賓館（にしん御殿） 撮影：市川雅清

桜を愛でる（めでる）理由

桜を見ることで、なつかしい思い出がよみがえり、優しい気分になります。ある程度、年齢を重ねた人なら、その人だけの「桜の思い出」があるのではないのでしょうか。

不思議なことに、「花」はその国の国民性を表します。日本の国花は法的には決まっていりませんが、「菊」が天皇の象徴ならば、「桜」は日本人の象徴です。桜の美しさは、その「散り際」にあり、日本人の死生観を表しているのです。

多くの花は、ミイラのように醜くしぼみ、腐臭すら漂わせて枯れていきます。でも、桜はけっしてそんな姿を見せません。美しい花びらを舞い散らせて終わり、水面を連なって流れるすがた「花筏」（はないかだ）は実にみごとです。また、花びらが散ったあと、ガクについていた細かな蕊（しべ）がこぼれるように降るようすを「桜蕊降る」（さくらしべふる）と言います。

何もこのさず、すべて捨てるからこそ、美しい。大空を上昇していく気球のように軽く、人生を歩んでいきたいと思います。

平成30年4月1日
株式会社市川葬典 取締役会長 市川雅清



か・い・ご

義母の認知症は穏やかに進行しています。元々の性格の片鱗を時折感じますが、本当に穏やかに過ごせるようになってきました。「ありがとう」「すみませんねえ」の言葉もたくさん出てくるようになってきました。何だかんだと理由をつけて外に出たがらない義母でしたが、週に一回のペースで行くショートステイや医者や美容院もさっと行けるようになりました。また、売着持っている自分の洋服をあちこちに移動して、出し入れすることが義母にとって楽しい時間となっていることがわかり、私は取替えて彼女の洋服や部屋の物を片付けないことにしました。ほぼ毎日のように物が移動してあります。紙パンツを穿いていても粗相することが多くなり、全身お着替えも度々、同じ話を繰り返し、幻視や妄想、作り話もいつものこと、私は兎に角「義母の頭は壊れている」と何度か何度も自分に言い聞かせ、介護に取り組んできました。そして、「なんて良い嫁なんだろう…お義母さんは私が嫁で良かったね!」と声に出して自分を奮励めることにしたのです。毎日の義母の生活が彼女にとって不安や怒りやストレスがなく楽しく平穏であること、その手助けをすることが介護だとわかってきました。

仕事をしながら、さらに孫の面倒を見ながらの義母の介護で、自分のストレスにならないようにすることはとても大切なことです。しかしながら、義母の介護をさせていただいて学ぶことはとても多く、自分に置き換えることも不安になります。誰にも迷惑をかけたくないとはいえ、そんな訳にはいかず、できるだけ早めに終活に取り組み、身軽なすっきりとした生活を目指して、かける迷惑は最小限にしたいと思っています。今、義母の穏やかな顔が私の優しさと力になっています…

市川久美子



限りなく少なく、シンプルに生きる…
いい人生はこれから
幸せのレシピ。

気ままに、エッセイ『終活カフェ』によろこせ!

市川雅清



間違いだらけの「終活」と正しい「終活」その1

「終わる」の“終”と「活動」の“活”と書いて「終活」。今、話題の言葉なので、ご存知の方も多いと思います。終活とは、平成 21 年に週刊朝日が造った言葉で、平成 24 年には新語・流行語大賞でトップテンに選出されました。当初は葬儀やお墓など人生の終焉に向けての事前準備のことでしたが、現在では、「人生のエンディングを考えることを通じて“自分”を見つめ“今”をより良く、自分らしく生きる活動」のことを言います。

では、自分を見つめ、自分らしく生きる活動とは、何でしょう? 人生の後半を趣味や生きがいを見つけて、存分に謳歌することもひとつですが、ここでは、誰にでも必ずやってくる“死”について「自分がどう考え、どう行動するか」について、お話していきます。死ぬことを考えるより、生きることを考えていきます。

20 世紀初頭のように子供が多くて 10 人という時代には、分担して親の老後の世話や故人の後始末を行うことができたが、現代のように子供 1 人が珍しくない時代には、「子供へ大きな負担はかけられない。」そのため社会現象として「終活」が広がっているのが現実です。

平成 28 年には、わが国の高齢化率 (65 歳以上人口) は 27.3% で、4 人に一人が 65 歳以上の超高齢化社会です。誰も知らない、世界一の高齢社会を迎えています。その証拠として“おひとり様”や“孤独死”という言葉が世間では当たり前のように使われるようになってきました。単身者の高齢者が増え続けているのが現状です。

自分のためではなく、家族のため、子供に迷惑をかけないように「終活」する人が多く、今ではブームになっています。自分が死んだ後の葬儀やお墓の準備、遺言書の作

成や遺産相続。少子化の時代、残された数少ない縁者に迷惑をかけないように準備することは重要ではありますが、死後のことは「終活」の一部にすぎません。

“オレの葬儀だから、オレがやりたいようにやるんだ!” と、もっともらしいことを言いますが、葬儀は死者の仕事ではありません。遺族が自由裁量で行えばいいものではないでしょうか? 「終活」ということは、“自分の死を受け入れる”

ことと同義です。死ぬときに「今の人生に納得できる」ようにすること。そんな生き方をいろいろ探っていくのが、「終活」の本質だと思います。

『終活なんておやめなさい』(青春新書)の著書で、宗教評論家のひろさちやさんが言う。死を受け入れたように見せかけながら、現世への執着心が垣間見える“執活”になっていかにしないようにしたいものです。

次回、第 26 号の予告

間違いだらけの「終活」と正しい「終活」その 2、として、正しい終活について、お話を進めてまいります。お楽しみに…

●自己紹介 (いちかわまさきよ) 1955 年生・B 型・おうし座
一級葬祭ディレクター 技能審査協会審査官



ライフ終活アドバイザー
趣味 / 写真・登山・心学研究
座右の銘 / 単純、明快、矛盾なし
大切にしているもの / 見えないもの、
見えないところを大切に